

ATTAKA vol.13

田原市民活動支援センターだより「あったか」

A=渥美のア、TA=田原のタ、AKA=赤羽根のアカをくっつけたロゴで、
あったかい心で、つながるあったかいまちづくり、そんな活動はあったかい、とあったか尽くしのたよります。

2022.12.15発行 発行・編集：たはら市民活動応援隊

教えて！あなたの団体

カパー・フラ・オカレフア・マカノエ・タハラ

Ka Pā Hula O Ka Lehua Makanoē Tahara

今回は、フラチーム「Ka Pā Hula O Ka Lehua Makanoē Tahara カパー・フラ・オカレフア・マカノエ・タハラ」です。代表の伊藤八重子さんは、ハワイの文化フラを教える資格である「ウニキ」を持つ正統派のクムフラ（フラの先生という意味）から直接学び、現在、江比間教室、アイレックススポーツクラブ内田原スタジオ、豊橋市杉山公民館を拠点として、そのクムフラのフラを伝える活動をしています。



伊藤八重子さん

Q 最初に少し難しい名前について教えてもらえますか。

A 私が師事するクムフラ、クムレフア(Kum Lehua レフア先生という意味)から授かった、さらにその上の先生の名前に因んだ名前で責任も重いのですが、有難いことなので大切にしています。でも皆さんと話す時は、カパー・フラと略すこともあります。因みに、よくフラダンスという言い方をしますが、フラは略語ではなくフラだけでフラダンスの意味なので、フラダンスというとダンスダンスとなってしまいます。

Q 名前を授けてくださったクムレフアとの出会いについて教えてください。

A 5年程前、もっともっとフラを本格的に学びたいと思い立ち、単身ハワイにフラ研修に行き、そこでクムレフアに出会い、強く惹きつけられ、師事することになりました。

Q どのようなところに惹かれたのですか。

A フラは、“心で踊る”ものと考え、心を大事にしているところです。彼女は、自然の中に神々がいるというハワイに伝わる教えを信じ、自然を守り、自然界と共に暮らすということを大切にしています。地球に暮らせていただいているのだと感謝の気持ちを常に抱いています。だから彼女のフラは、アロハスピリットに溢れ、とても優雅で、私は初めてそのフラを観た時、もう打ちのめされてしまったのです。彼女のフラを根本から学び、こんなフラが踊れるようになりたい、みんなにこのフラを伝えたいと強く思い、彼女の下で学び始めたのです。



「第16回しみのひろば」で会場に笑顔と元気を届ける皆さん

Q 伊藤さんはどういうことを大事にし、心掛けてフラを踊っていますか。

A ハワイには古代から受け継がれる Aloha (アロハ) という精神があります。Aloha (アロハ) という、挨拶の言葉としてよく知られていると思いますが、自分自身の内面を整え、思いやりを持った行動をするという精神を意味する言葉でもあるのです。この Aloha (アロハ) の精神を常に抱き、常日頃から謙虚な気持ちと初心を忘れず、心を磨くことを心掛けて踊っています。

Q フラの魅力、効用について、教えてください。

A 身体的には体幹が鍛えられ、姿勢がよくなります。自分は勿論、周りを明るく元気にしたいと願って踊りますから、自然に笑顔になります。そして笑顔が、人とのつながりを広げてくれます。仕事終わりで疲れていても、レッスンを終えると皆さん、「楽しかった」「気持ちよかった」と清々しい笑顔を見せて帰っていかれます。

Q 「笑顔になる」というのは、伊藤さんにお会いして納得です。やはり伊藤さんの笑顔の源も、フラなのですね。最後に今後の活動の抱負をお願いします。

A 自然を守り、自然界とともに暮らすという姿勢を大切に、笑顔が一つでも多く増えるようにしたい、そんな想いでフラを伝えていきたいと思っています。田原市にも、たくさんの笑顔溢れるフラダンサーが増えて、ハワイアンのようにみんなで寄り添って暮らせるといいなと願っています。

第16回しみんのひろば 「みんなでつくっているという一体感を感じた!!」

市内の市民活動やボランティア活動を広く知ってもらうための集い「しみんのひろば」が16回目の今回、10月16日(日)サンテパークたはらのサンテドームで開催されました。歌・楽器演奏・ダンスなどのステージ発表や活動内容の写真などの展示発表、折り紙の魚釣りやホワイトボードづくりなどのワークショップ、食べ物・リサイクル本などの販売コーナー、など26の団体・個人が参加し、日頃の活動をPRし、また参加団体間の交流を深めました。

参加した団体からは、「お客様との対話が盛り上がった」「熱心に説明を聞いてもらえた」「たくさんの拍手が嬉しかった」などの声が多く聞かれました。また、他の団体の店番を手伝ったり、オープニングでの各団体の自己紹介の際、他の団体の中学生と一緒に盛り上げたりして、参加団体同士がお互い行き来しあい、声を掛け合ったりする場面も見られました。ある女性は、「みんなで『しみんのひろば』を作っているという一体感を感じた」と言ってくれました。一緒に盛り上げ、最後の片付けまで協力してくれた皆さん、お疲れ様でした。訪れてくれた皆さん、市民活動に触れていただき、ありがとうございました。

今回の各団体、会場の写真は、文化会館内の市民活動支援センターの掲示板に、順次入れ替え展示していますので、是非ご覧ください。



田原中学校のボランティアサークル
「たはランティア」



ステージ発表をみる観客席



「ギターマンドリンサークルすずらん」の演奏

編集後記

今年の漢字に選ばれたのは「戦」でしたが、皆さんにとっては何でしたか。私は「挑戦」の「挑」。コロナで躊躇していた目論見に挑み、念願が叶ったから。「戈」(ホコ)が入った兵器で争うことを意味する戦は重苦しいけど、易きに流されず、夢に向かっての兵器なしの挑戦は良かったと満足しています。

ご意見・ご感想は

田原市民活動支援センター まで

開設場所 田原文化会館フリースペース

開設日時 毎週火曜日・土曜日/正午～午後4時